

昭和55年長野県南部でイネミズゾウムシの発生を確認

小林 莊一*・呉 羽好三*・中 沢 齊**
井出 万仁***・吉 沢 中夫****

Soichi KOBAYASHI, Yoshimi KUREHA, Hitoshi NAKAZAWA, Manji IDE and Nakao YOSHIZAWA : New appearance of the rice water weevil, *Lissorhophotrus oryzophilus* Kuschel, in the south part of Nagano prefecture in 1980.

Summary

Since 1979 we have performed a survey of appearance of the rice water weevil. The survey showed that the rice water weevil appeared in the south part of Nagano prefecture in 1980.

1) It occurred in Yamaguchi-mura, covering 85 hectares, Nagiso-machi, 45 hectares and Neba-mura, 20 hectares.

2) The density of occurrence was medium in Nagiso-machi but rare in Yamaguchi-mura and Neba-mura.

昭和51年愛知県で新発見されたイネミズゾウムシ¹⁾は、その後急速に分布を拡大した。昭和53年は岐阜、三重、静岡各県に発生をし²⁾、昭和54年には滋賀県に達した³⁾。

長野県では既発生の岐阜県に隣接する木曾郡、岐阜、愛知、静岡三県に接する下伊那郡を重点に、昭和54年から侵入確認調査を本格的に実施した。その結果、昭和55年に上記の一部の地域で発生が確認されたので、その概要を報告する。

調査にあたり、名古屋植物防疫所波方頼政氏をはじめ、長野県農政部、地元の農業改良普及所、町村、農協の多大な協力を得た。ここに関係者に深い感謝の意を表する。

1 侵入確認調査

昭和54年に木曾郡、下伊那郡を重点にイネ苗トラップ、畦畔雑草、苗代、本田で越冬虫の発生確認調査を、5月上旬からほぼ1週間ごとに実施した。同年は木曾郡南木曾町で、畦畔のチガヤ、ササに本種と酷似した食痕を発見したが、成虫の生息は確認されなかった。

昭和55年には前年と同様な方法で調査した。この年は新たに木曾郡山口村と下伊那郡根羽村に、高さ10mに直径1mのネットトラップを設置し、飛来虫の採集を試みた。

2 発見までの経過

昭和55年5月31日木曾郡山口村の本田で、食害痕と成虫2頭が木曾普及所南木曾支所によって発見された。県農事試験場および木曾病害虫防除所は6月2日に現場へ急行し、山口村山口地区と南木曾町田立地区で、越冬成虫および食害痕を観察した。同日は名古屋植物防疫所波方頼政氏に調査に同行していただき、本種とその食害痕であることが確認された。

第1表 昭和55年長野県におけるイネミズゾウムシ発生面積

| 場 所 | 標 高 | 調査地点数 | 水田面積 | イネミズゾウムシ | |
|-------------|-----|-------|-------|----------|------|
| | | | | 発生面積 | 発生程度 |
| 木 曾 郡 山 口 村 | m | 23 | ha | ha | 少 |
| | 372 | | 164.3 | 85 | |
| 南木曾町 | 439 | 30 | 271.4 | 45 | 中 |
| 下伊那郡根羽村 | 603 | 6 | 108.4 | 20 | 少 |

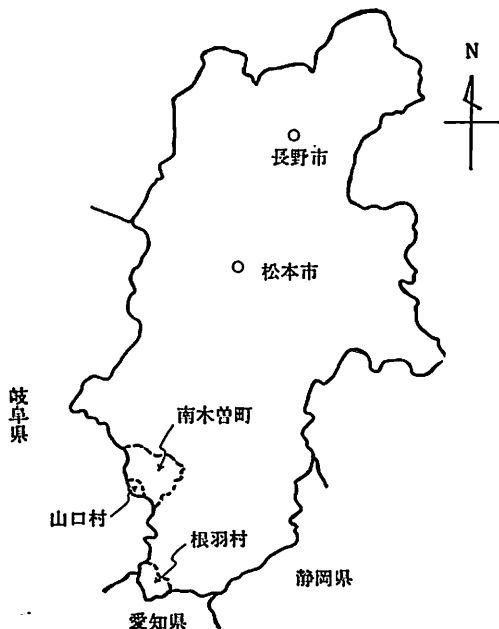
発生面積は第1表のように、山口村85ha、南木曾町45haであった。山口村の発生密度は低く、食害株率はほぼ10%以下で、注意して観察しなければ越冬成虫を発見できなかった。一方、南木曾町では食害株率が50%を越える水田がかなりみかけられ、越冬成虫は中程度の発生であった。山口村および南木曾町は既発生の岐阜県と接し、岐阜県側に傾斜する地勢で、そちらからの西風が多い。西風によって運ばれた成虫が長野県側の山によってさえぎられ、これらの地区に侵入したものと考えられる。侵入時期は明らかでない。大半は越冬後の成虫が昭和55年に飛来したと考えられる。しかし、南木曾町の生

* 長野県農事試験場 Nagano Agricultural Experiment station, Suzaka, Nagano 382.

** 同県南信濃農事試験場 Nagano Nanshin Agricultural Experiment Station, Takamori, Nagano 399-31.

*** 同県木曾病害虫防除所 Kiso Plant Protection Office, Kiso-fukushima, Nagano 397.

**** 同県下伊那病害虫防除所 Shimoina Plant Protection Office, Iida, Nagano 395.



第1図 昭和55年長野県におけるイネミズゾウムシ発生地域

息密度は中程度で、ここでは既に昭和54年に新成虫が侵入していた可能性もある。

昭和55年6月6日に県農事試験場、同南信農業試験場、下伊那病害虫防除所、および同農業改良普及所は、下伊那郡根羽村月瀬の本田で食痕を発見し、越冬成虫を6頭採集した。この地区は愛知県側にわずかに開けた山間地である。6月12日に前出の波方氏により本種であることが再確認され、根羽村月瀬地区を中心に20haで発生を確認した。同村の生息密度は極めて低く、食痕、越冬成虫ともようやく発見できる程度であった。その後の増加傾向はなく、この地区へは昭和55年に越冬後の成虫が飛来したと考えられる。

2箇所を設置したネットトラップで、成虫は採集されなかった。おそらく生息密度が低いためであろう。

越冬成虫が確認された場所で、稻株に寄生する幼虫を調査した。越冬成虫密度が高かった南木曾町では、6月中旬に幼虫が発見された。その後寄生幼虫数は増加し、7月上旬には株あたり20頭を越えるものがみられ、土藪、新成虫も発見された。密度が低かった山口村では、株あたり数頭の幼虫が発見されたにすぎなかった。根羽村では幼虫は発見されなかった。発生生態の詳細については別の機会に報告したい。

3 今後の発生

長野県南部地域に発生したイネミズゾウムシは、今後北上し分布を拡大するのは必至である。長野県内の水田は乾田が多く、高標高地にまで水田がある。今後は本種の分布拡大と、水稲栽培におよぼす影響について調査を続けたい。

4 摘要

昭和54年から長野県においてイネミズゾウムシの侵入確認調査を実施した。その結果、昭和55年に長野県南部の一部の地域に、本種の発生していることが確認された。

1) 発生地域は木曾郡山口村山口地区85ha、同郡南木曾町田立地区45ha、下伊那郡根羽村月瀬地区20haであった。

2) 発生密度は南木曾町が中程度、山口村、根羽村は少発生であった。

引用文献

- 1) 都築仁・五十川是治(1976)新害虫イネミズゾウムシ(仮称)愛知県に発生. 植物防疫 30:341~346.
- 2) 森田征士ほか(1978)昭和53年度におけるイネミズゾウムシの対策と発生経過. 植物防疫 33:498~505.
- 3) 農業の新技术 No.5(1979)新害虫イネミズゾウムシの生態と防除法. 愛知県農業総合試験場 40pp
- 4) 長野県総務部情報統計課編(1979)長野県勢要覧昭和53年度版. 131pp.

(1980年8月26日受領)